

岡山県感染症週報 2016 年 第 39 週 (9 月 26 日 ~ 10 月 2 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

◆2016 年 第 39 週 (9/26 ~ 10/2) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 37 週 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3 名 (O157: 幼児 男 1 名、20 代 女 1 名、
40 代 男 1 名)
5 類感染症 梅毒 1 名 (50 代 男)
第 38 週 2 類感染症 結核 1 名 (70 代 女)
5 類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2 名 (60 代 女 1 名、90 代 男 1 名)
後天性免疫不全症候群 1 名 (40 代 男)
梅毒 1 名 (30 代 男)
第 39 週 2 類感染症 結核 3 名 (20 代 女 1 名、60 代 男 1 名、70 代 男 1 名)
3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3 名 (O145: 60 代 女 1 名、
O157: 50 代 女 1 名、O 群不明: 40 代 女 1 名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数: インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○RS ウイルス感染症は、県全体で 64 名 (定点あたり 0.85 → 1.19 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 51 名 (定点あたり 0.56 → 0.94 人) の報告があり、前週より増加しました。

【第 40 週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O157: 60 代 男 1 名、幼児 女 1 名) の発生がありました。

(10 月 3 日 ~ 4 日)

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第 37 週に 3 名、第 39 週に 3 名の報告があり、2016 年第 39 週まで (~10/2) の報告数は 46 名となりました。さらに第 40 週 (10/3~4) にも 2 名の報告があり、患者の発生がつづいていきます。岡山県では「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. [RS ウイルス感染症](#)は、県全体で 64 名 (定点あたり 0.85 → 1.19 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、美作地域 (2.83 人)、岡山市 (1.79 人)、倉敷市 (1.55 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. [A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で 51 名 (定点あたり 0.56 → 0.94 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、倉敷市 (1.55 人)、美作地域 (1.50 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。就学前から学童期の小児に多い感染症で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしばおう吐を伴います。例年、冬季に患者が多く報告されますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↗	★★★★★
咽頭結膜熱	↗	★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★★★★
感染性胃腸炎	↗	★★★★	水痘	↗	★
手足口病	↗	★	伝染性紅斑	↑	★
突発性発疹	↗	★	百日咳	↗	★★
ヘルパンギーナ	↑	★	流行性耳下腺炎	↗	★★
急性出血性結膜炎	↗		流行性角結膜炎	↗	★
細菌性髄膜炎	↗		無菌性髄膜炎	↗	
マイコプラズマ肺炎	↑	★	クラミジア肺炎	↗	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

これからの季節、紅葉狩りなどのレジャーで、野外に出かける機会が増えます

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもあります。春から秋(3～11月)にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。

【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤(ディート成分を含むもの)を噴霧しましょう。(虫除け剤を子供へ使用する際は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

- ◎容易に取り除くことができる場合は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。なお、取り除いたマダニは、保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。

【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。
- また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。

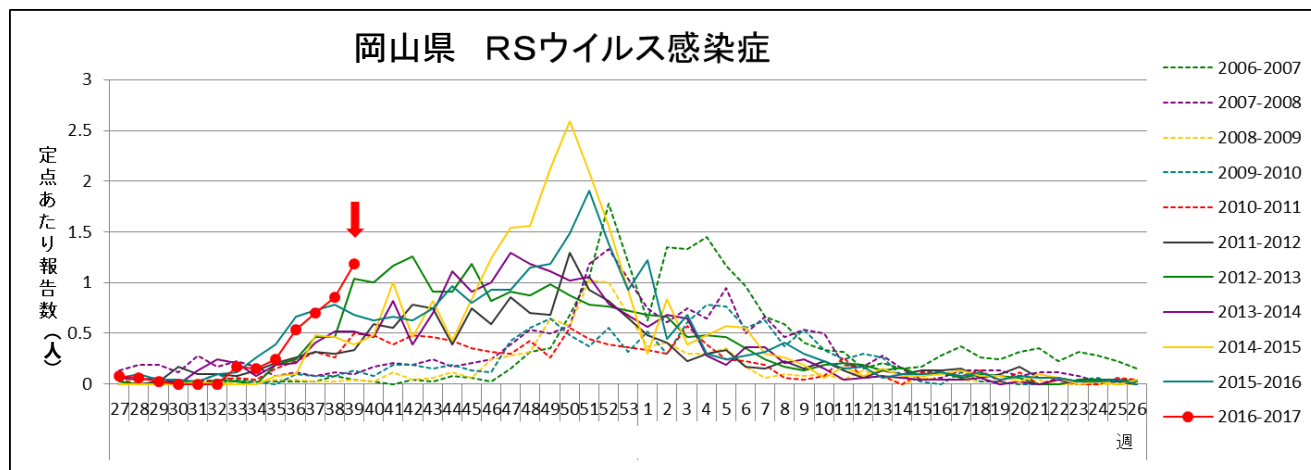
[重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関する Q&A \(厚生労働省\)](#)
[マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)

今週の注目感染症

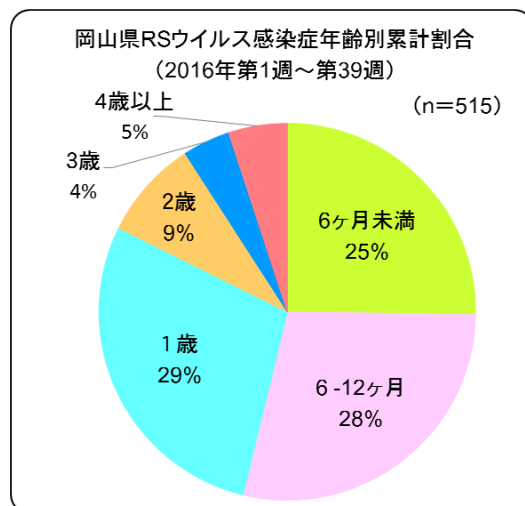
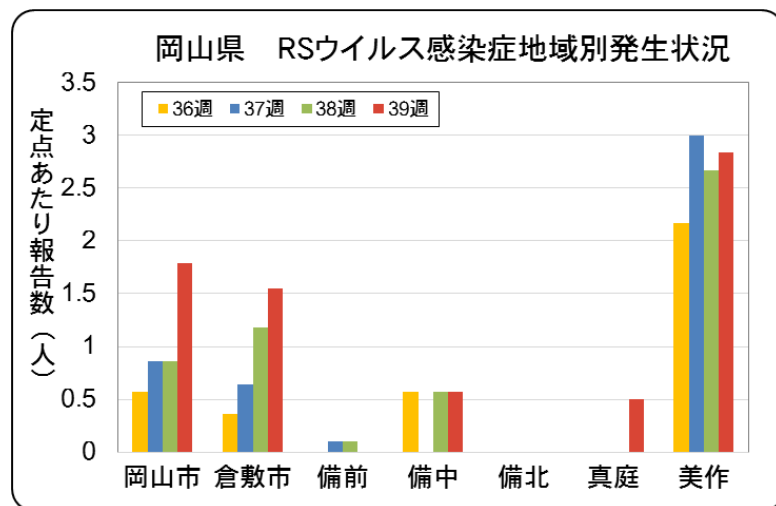
RSウイルス感染症

【岡山県の発生状況】

RSウイルス感染症は、県全体で64名（定点あたり0.85→1.19人）の報告があり、5週連続で増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、美作地域（2.83人）、岡山市（1.79人）、倉敷市（1.55人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。特に岡山市（0.86→1.79人）では、前週より倍増しています。また、美作地域では、他の地域と比較して、第36週（9/5～9/11）から著しく多い状態が続いています。2016年第39週までの年齢別累計割合では、1歳未満の乳児が全体の53%を占めています。



※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。

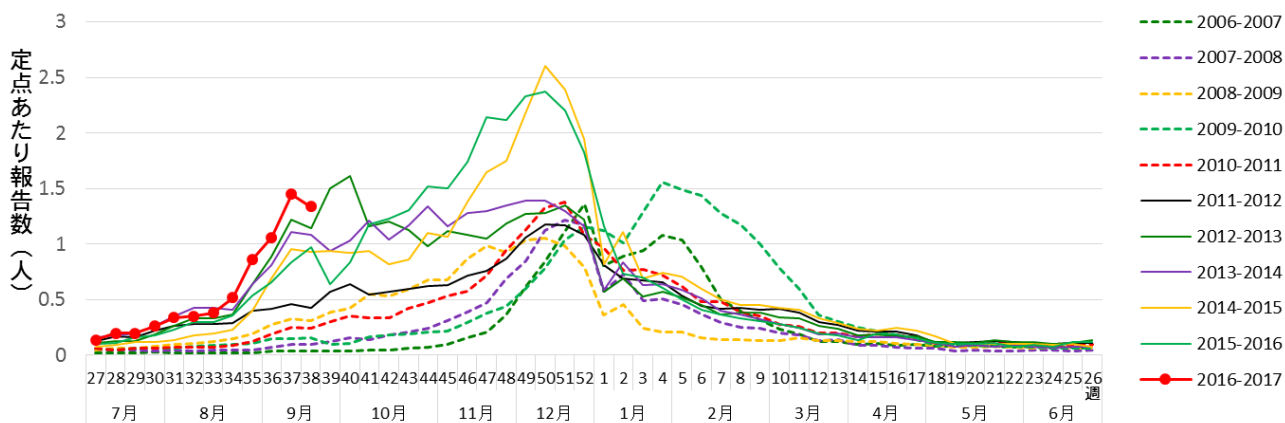


この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがありますが、症状が悪化しても平熱か38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼーゼーとのがが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。今後、さらに患者数が増加する恐れがありますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めてください。

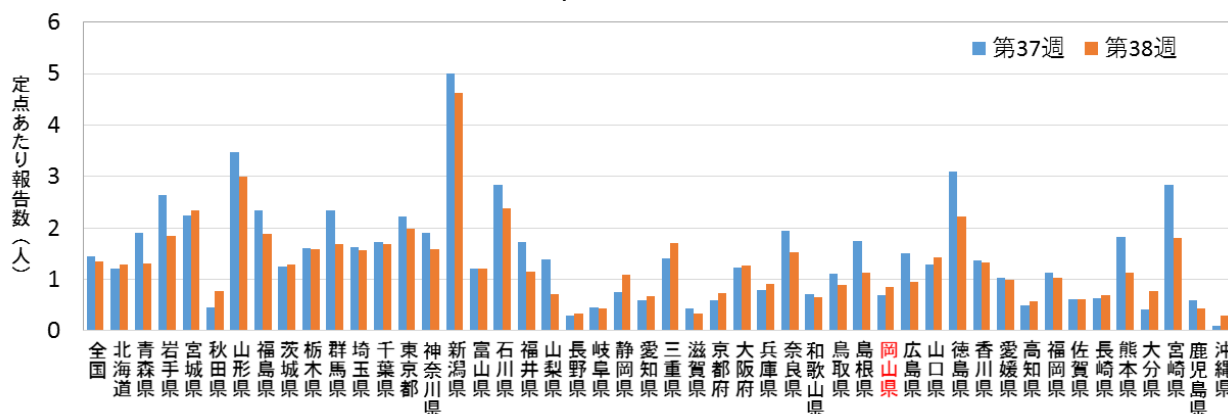
【全国の発生状況】

全国の第38週（9/19～9/25）の発生状況は、定点あたり報告数が1.34人であり、前週よりわずかに減少しました。報告数は減少したものの、過去10年間の同時期と比較して最も多い状態で推移しています。都道府県別では、新潟県（4.62人）、山形県（3.00人）、石川県（2.38人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。東日本を中心に流行していますが、近隣県でも多くの患者が報告されています。

全国 RSウイルス感染症発生状況



RSウイルス感染症 都道府県別 発生状況



[IDWR 速報データ 2016 年第 38 週 \(国立感染症研究所\)](#)

【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。この感染症は、例年冬季に流行がみられていましたが、近年では夏頃から患者が報告されるようになりました。感染後2～8日の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状が現れます。約7割の乳児が1歳になるまでにRSウイルスに感染し、そのうちの約3割が肺炎や細気管支炎といった重篤な症状を引き起こします。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後6ヶ月以内にRSウイルスに感染した場合は、重症化し入院を必要とすることもあります。年齢を問わず、生涯にわたり感染と発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

【感染経路】

感染している人が咳やくしゃみ、または会話をした際に飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、ウイルスがついている手指や物品を触ったり舐めたりすることで感染します。

【乳児への感染予防】

RSウイルスに感染しても、年齢が上がるにつれて軽症であることが多いため、感染していることに気づかずに、乳児にうつしてしまうことがあります。そのため、咳などの呼吸器症状がある人は、可能な限り1歳未満の乳児との接触を避けることが感染拡大の予防に繋がります。風邪をひいたと思ったらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳児への感染予防に努めましょう。

【治療】

特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

[RSウイルス感染症とは \(国立感染症研究所\)](#)

[RSウイルス感染症に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

保健所別報告患者数 2016年 39週(定点把握)

(2016/09/26～2016/10/02)

2016年10月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17	—	—	—	—
RSウイルス感染症	64	1.19	25	1.79	17	1.55	—	—	4	0.57	—	—	1	0.50	17	2.83
咽頭結膜熱	13	0.24	4	0.29	3	0.27	—	—	4	0.57	—	—	—	—	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	0.94	12	0.86	17	1.55	7	0.70	6	0.86	—	—	—	—	9	1.50
感染性胃腸炎	249	4.61	60	4.29	41	3.73	45	4.50	18	2.57	28	7.00	14	7.00	43	7.17
水痘	15	0.28	5	0.36	4	0.36	2	0.20	—	—	1	0.25	—	—	3	0.50
手足口病	28	0.52	11	0.79	6	0.55	1	0.10	1	0.14	2	0.50	—	—	7	1.17
伝染性紅斑	5	0.09	1	0.07	2	0.18	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	15	0.28	6	0.43	1	0.09	2	0.20	3	0.43	1	0.25	—	—	2	0.33
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	11	0.20	2	0.14	4	0.36	3	0.30	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	46	0.85	15	1.07	22	2.00	4	0.40	2	0.29	—	—	—	—	3	0.50
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	3	0.60	1	0.25	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	1	1.00	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2016年 39週(発生レベル設定疾患)

(2016/09/26～2016/10/02)

2016年10月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	－	－	－	－	－	－	－	－	1	0.17	－	－	－	－
咽頭結膜熱	13	0.24	4	0.29	3	0.27	－	－	4	0.57	－	－	－	－	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	0.94	12	0.86	17	1.55	7	0.70	6	0.86	－	－	－	－	9	1.50
感染性胃腸炎	249	4.61	60	4.29	41	3.73	45	4.50	18	2.57	28	7.00	14	7.00	43	7.17
水痘	15	0.28	5	0.36	4	0.36	2	0.20	－	－	1	0.25	－	－	3	0.50
手足口病	28	0.52	11	0.79	6	0.55	1	0.10	1	0.14	2	0.50	－	－	7	1.17
伝染性紅斑	5	0.09	1	0.07	2	0.18	1	0.10	1	0.14	－	－	－	－	－	－
百日咳	1	0.02	－	－	－	－	－	－	1	0.14	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	11	0.20	2	0.14	4	0.36	3	0.30	1	0.14	－	－	－	－	1	0.17
流行性耳下腺炎	46	0.85	15	1.07	22	2.00	4	0.40	2	0.29	－	－	－	－	3	0.50
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	5	0.42	3	0.60	1	0.25	－	－	1	1.00					－	－

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第39週 2016/09/26～2016/10/02)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	64	15	11	26	5	3	1	2	1	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	13	-	1	2	2	-	3	3	1	-	-	-	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	-	-	4	3	7	6	9	5	4	2	4	5	-
感染性胃腸炎	249	4	29	32	28	17	20	18	13	11	7	4	17	10
水痘	15	-	-	-	2	4	5	1	1	-	1	-	-	-
手足口病	28	-	7	14	2	2	-	-	1	1	1	-	-	-
伝染性紅斑	5	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	1
突発性発疹	15	-	6	7	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	11	-	1	6	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	46	-	-	2	4	8	8	8	3	7	1	1	4	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	1	-	-

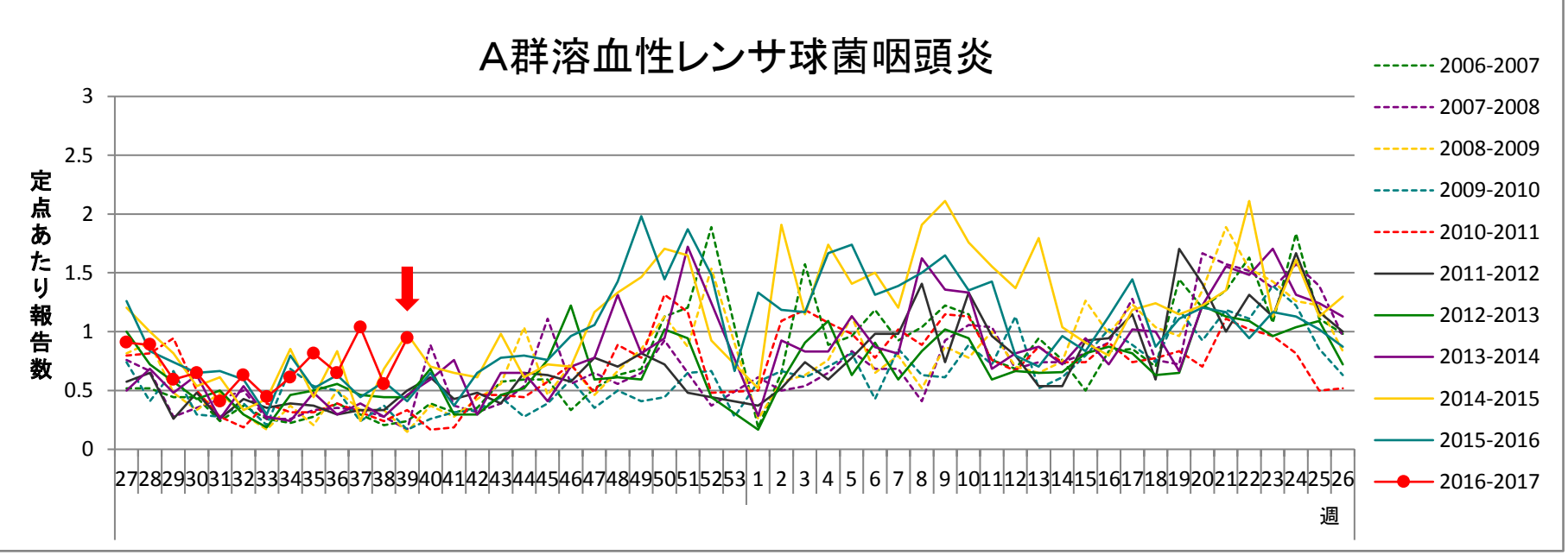
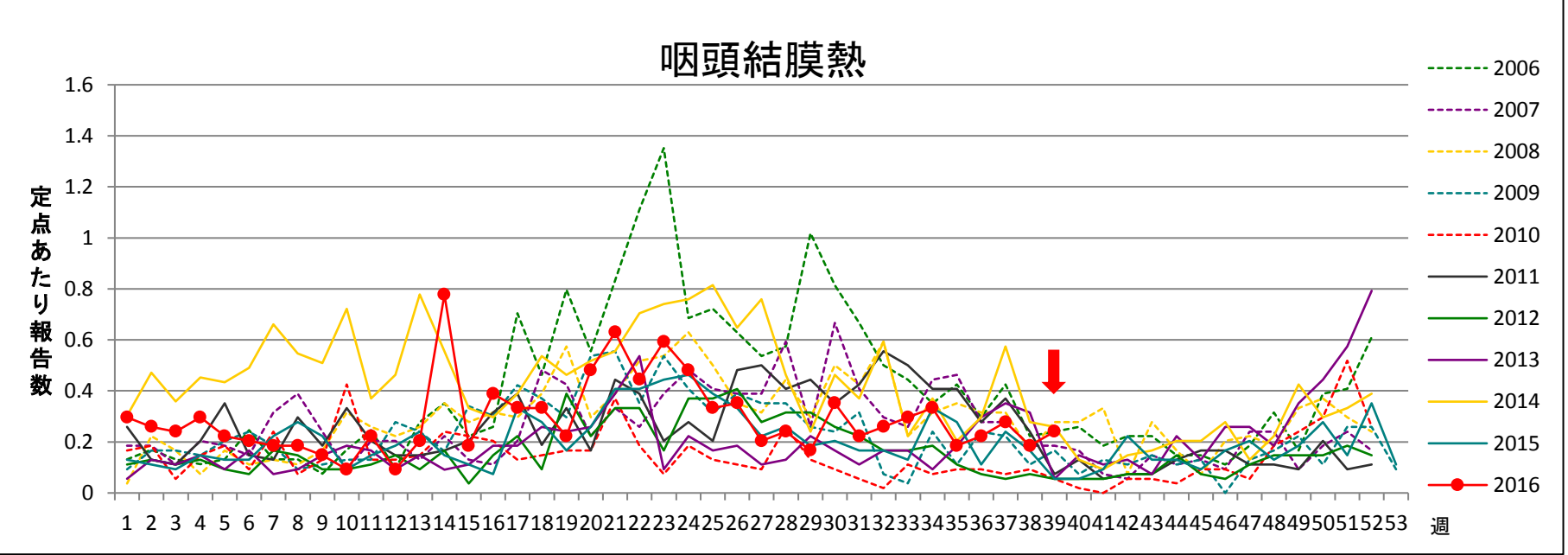
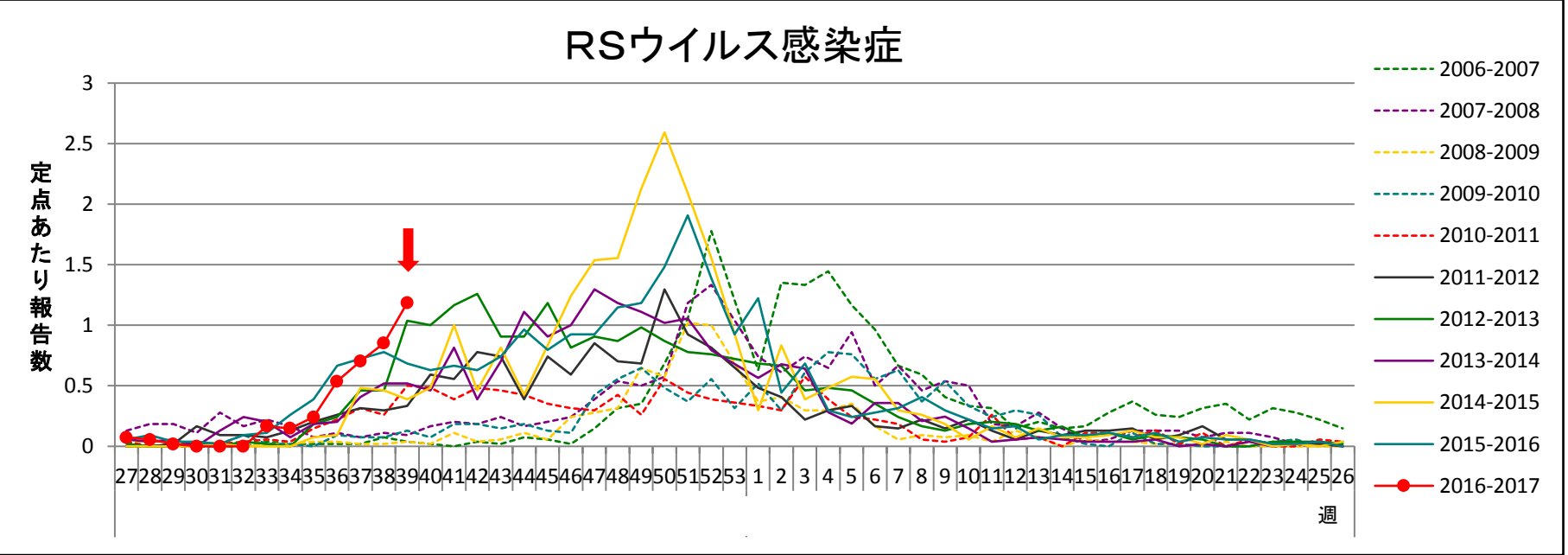
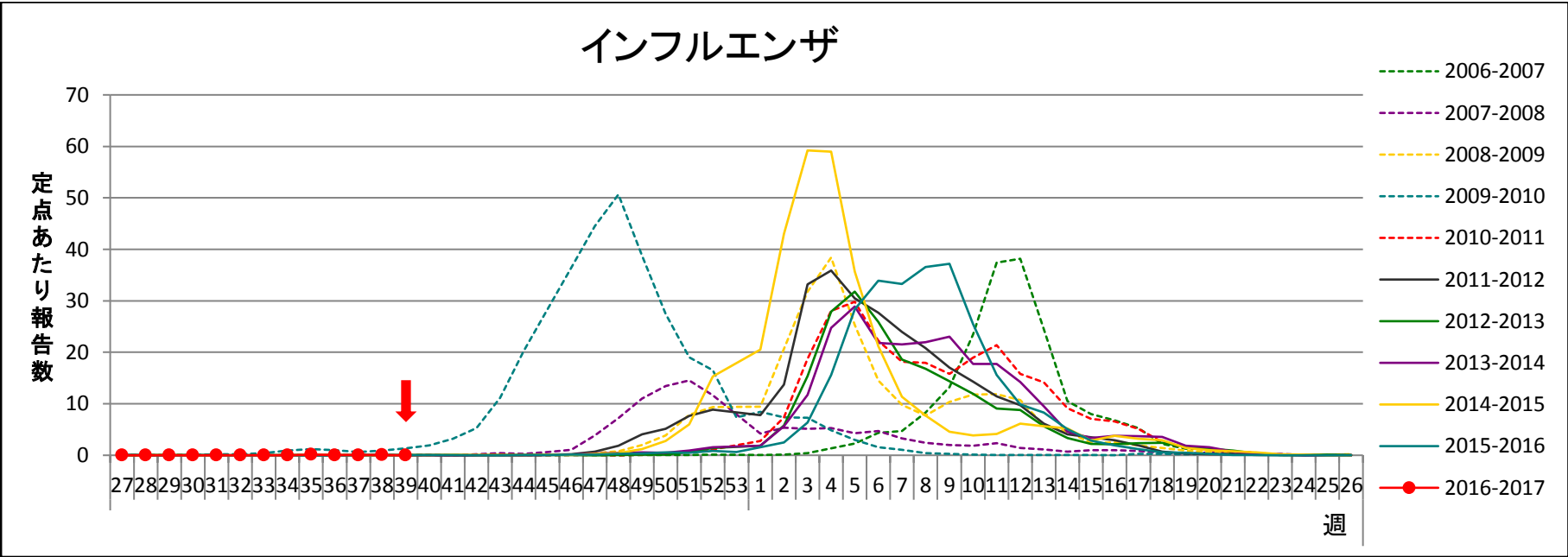
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

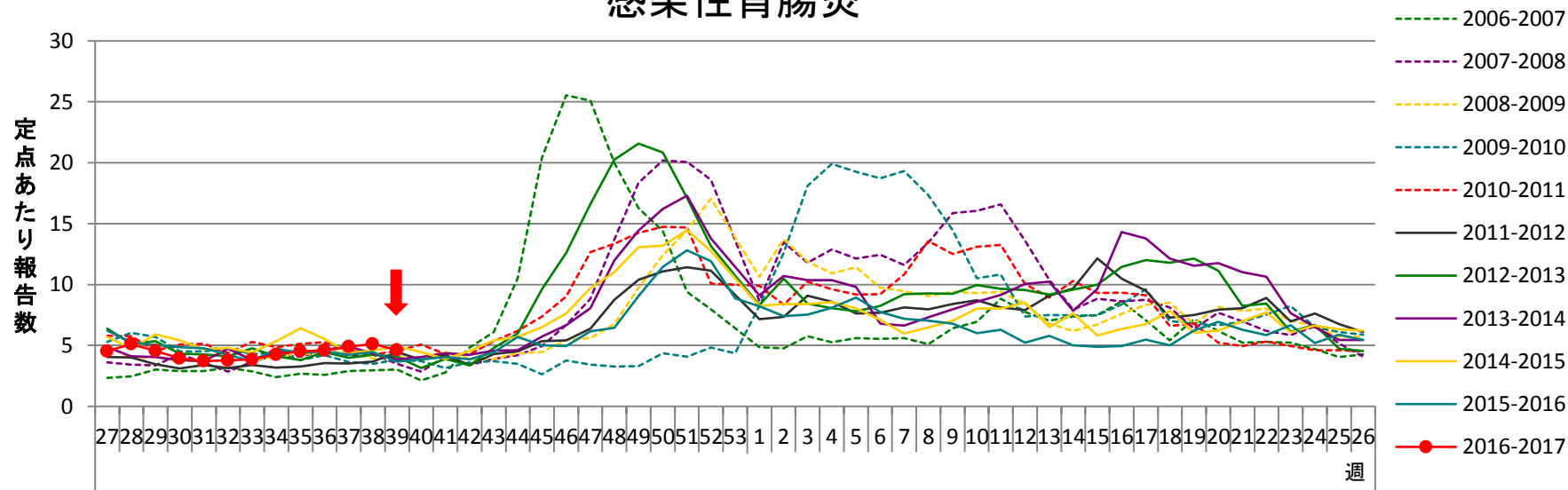
全数把握 感染症患者発生状況

2016 年 39 週

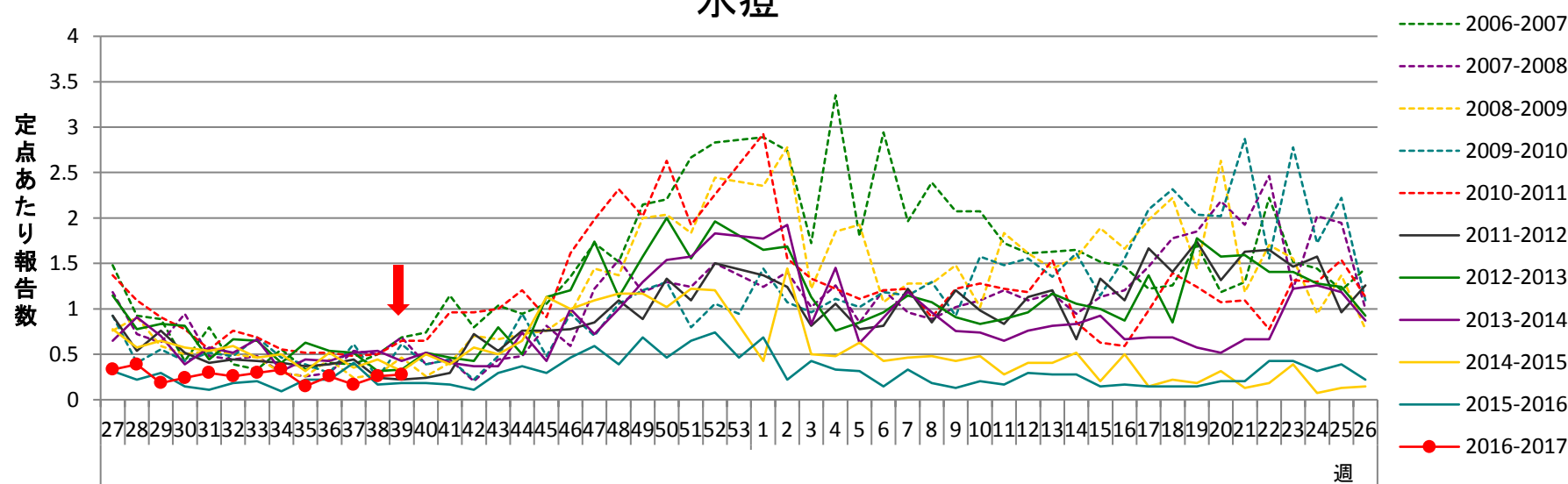
分類	疾病名	2016		2015	疾病名	2016		2015	疾病名	2016		2015
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	3	223	374	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	2	腸管出血性大腸菌感染症	3	46	63
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	2	3	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	2	9
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	1
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサヌル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	ジカウイルス感染症	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	1	－
	腎症候性出血熱	－	－	－	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－
	炭疽	－	－	－	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	1	1
	デング熱	－	1	2	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－
	ニパウイルス感染症	－	－	－	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	3	3
	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－
	ブルセラ症	－	－	－	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－
	発しんチフス	－	－	－	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	2
	野兔病	－	－	－	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	20	28
	レプトスピラ症	－	－	－	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	17	17	ウイルス性肝炎*3	－	3	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	19	34
	急性脳炎*4	－	8	14	クリプトスポリジウム症	－	－	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	3	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	6	2	後天性免疫不全症候群	－	9	21	ジアルジア症	－	1	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	6	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	22	35
	水痘(入院例に限る。)	－	1	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	29	25
	播種性クリプトкокクス症	－	1	1	破傷風	－	2	－	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	1	－	風しん	－	－	－	麻しん	－	－	－
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－



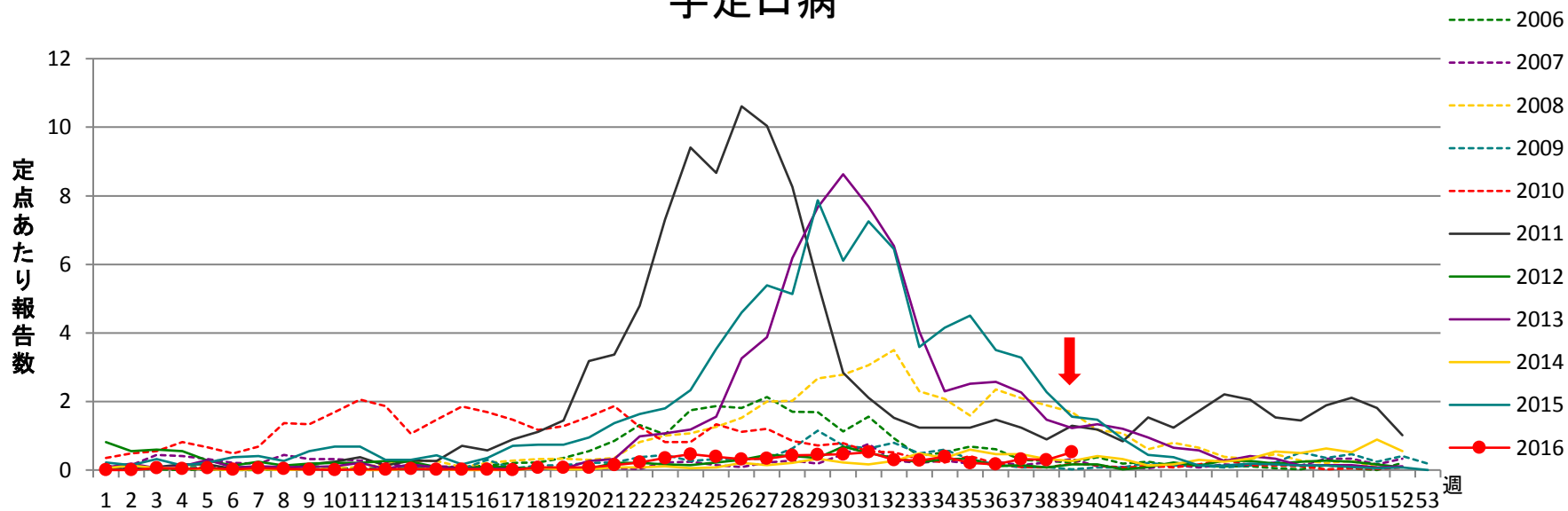
感染性胃腸炎



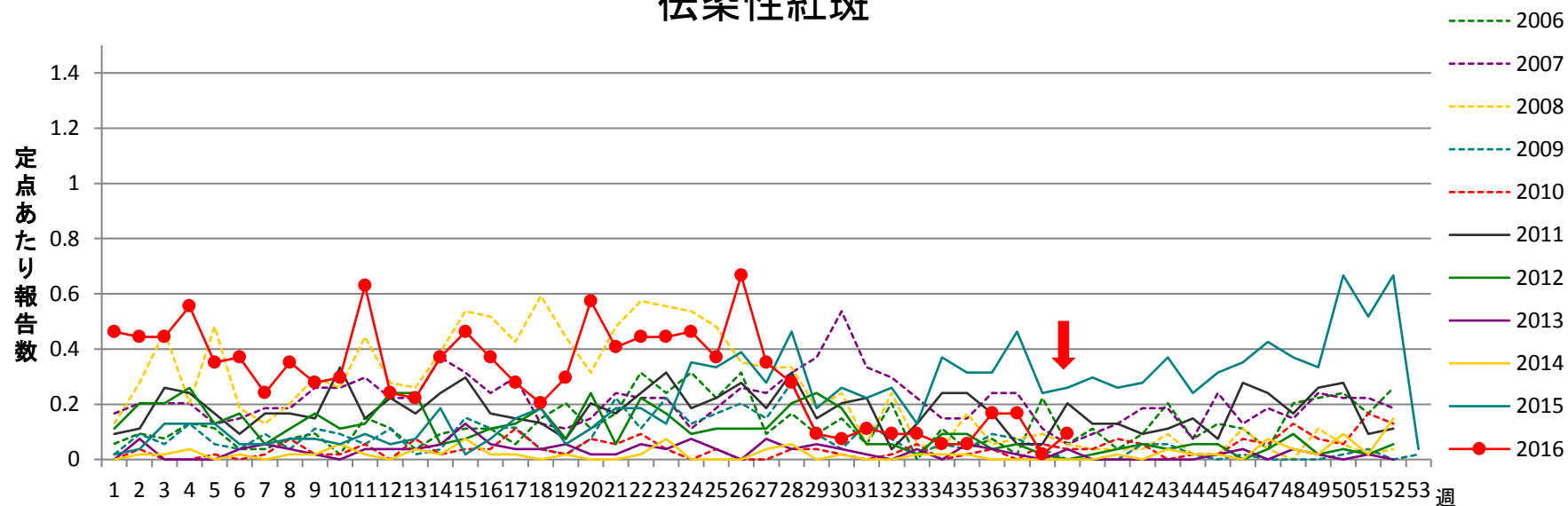
水痘



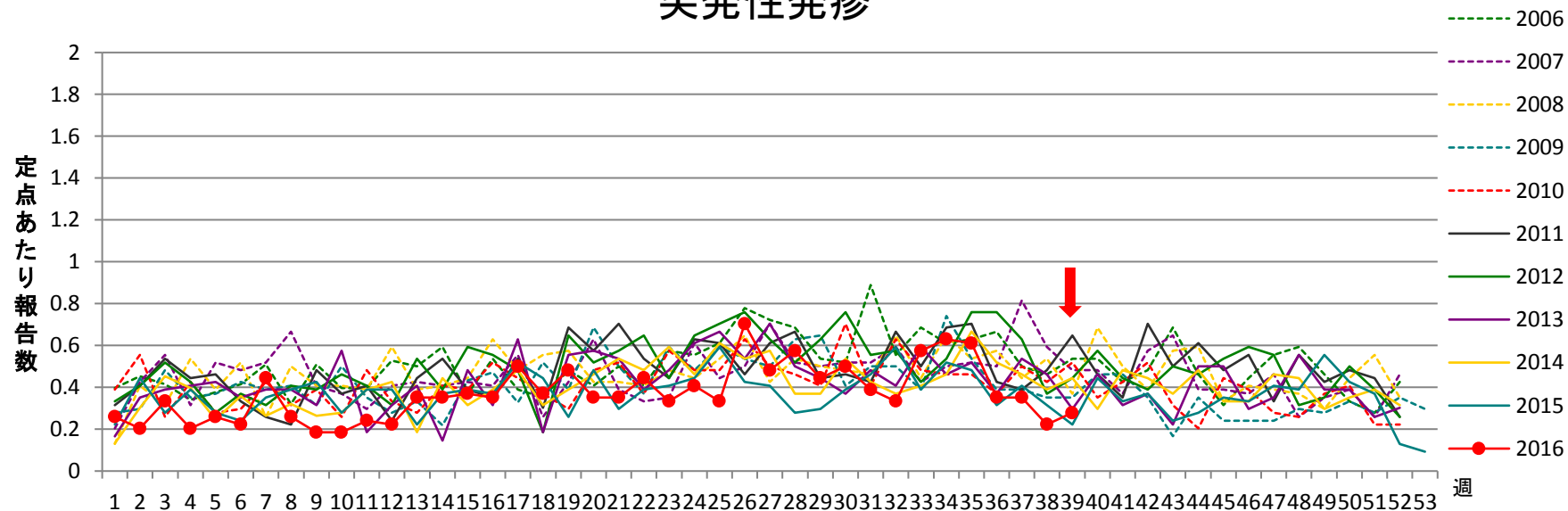
手足口病



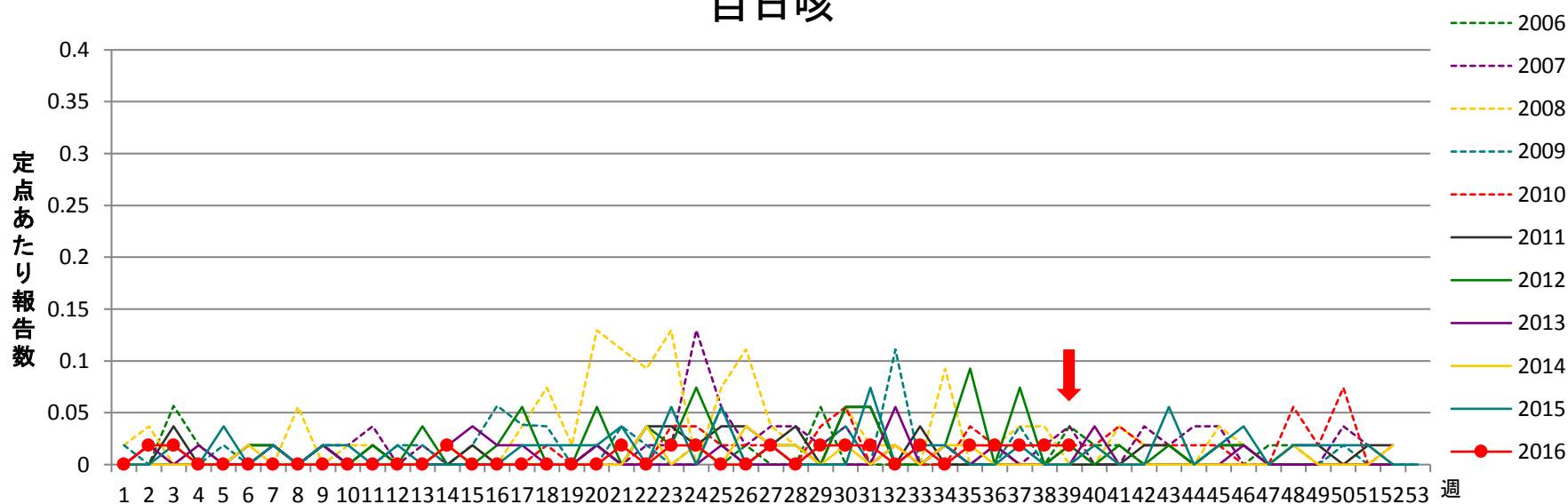
伝染性紅斑



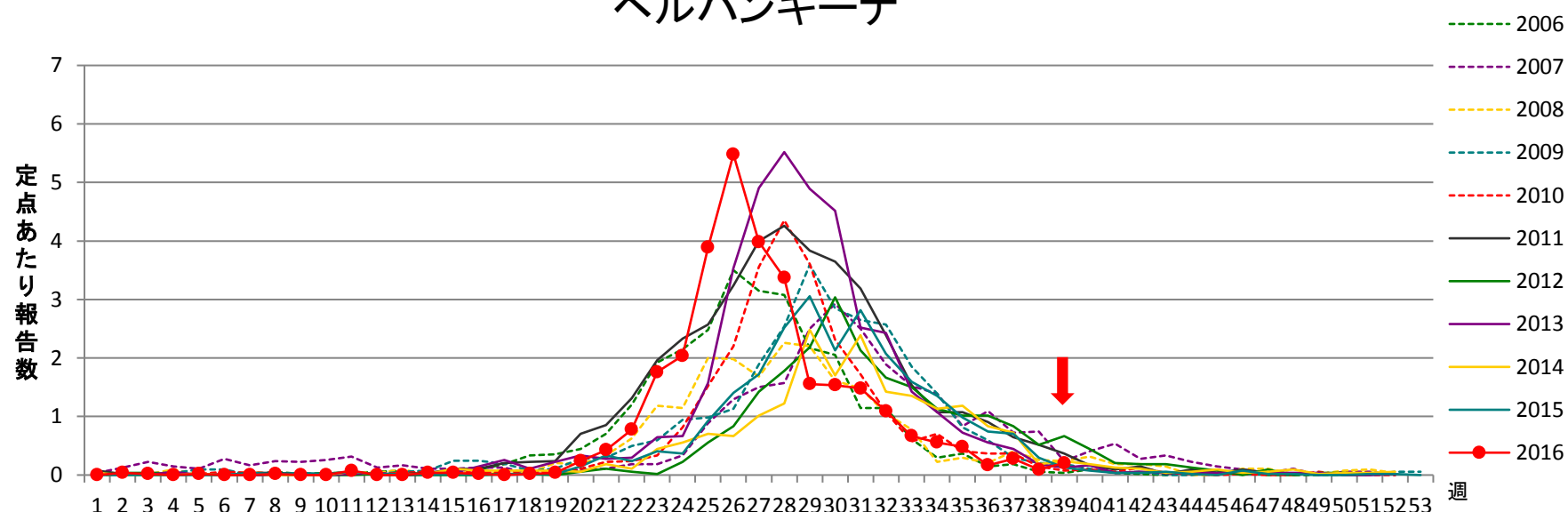
突発性発疹



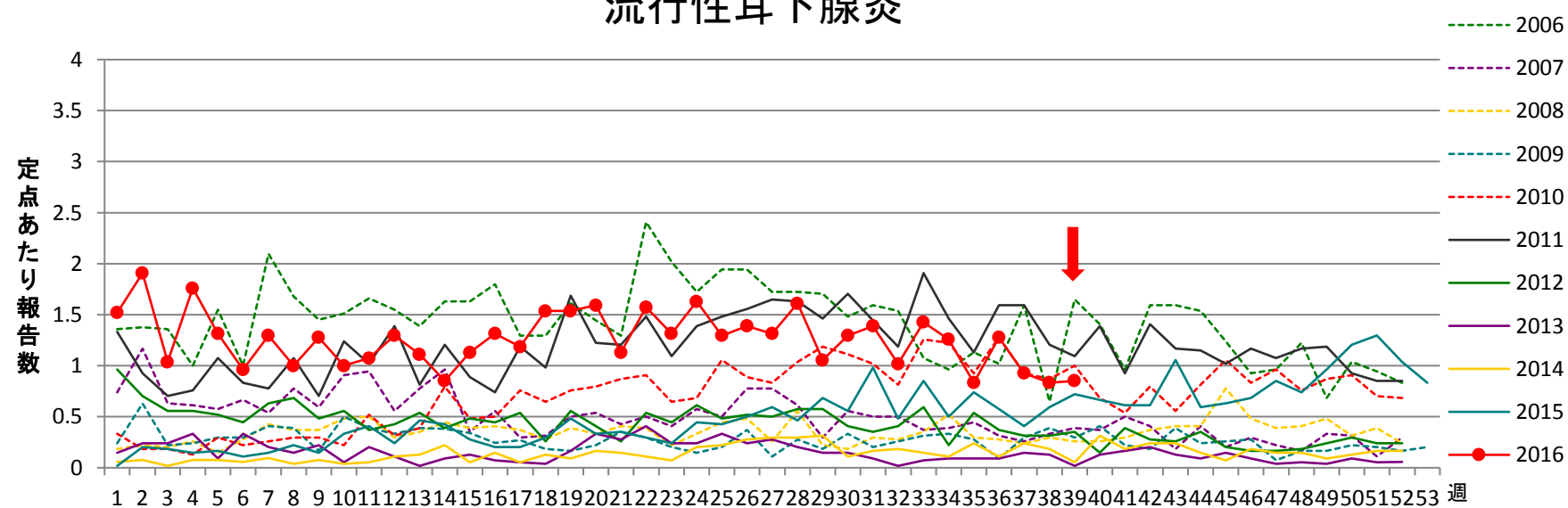
百日咳



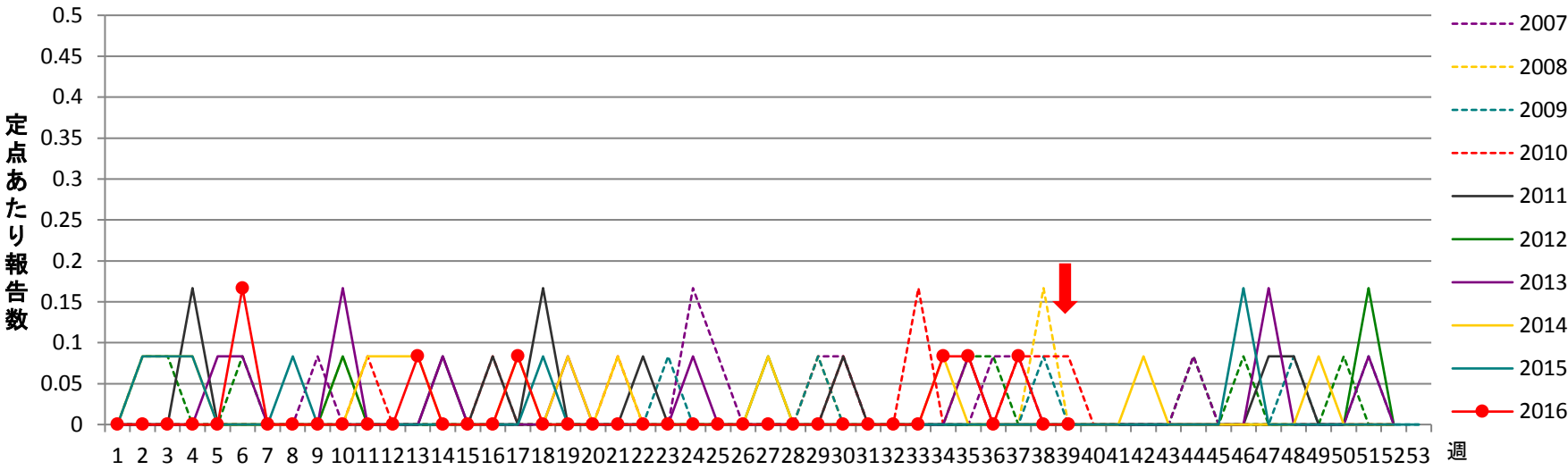
ヘルパンギーナ



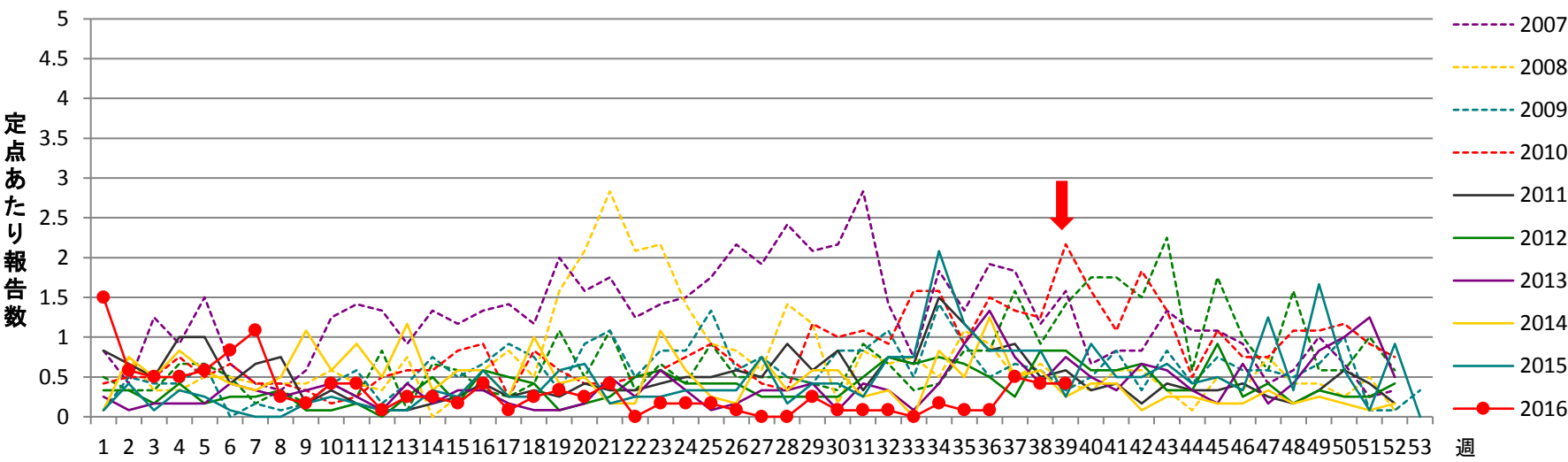
流行性耳下腺炎



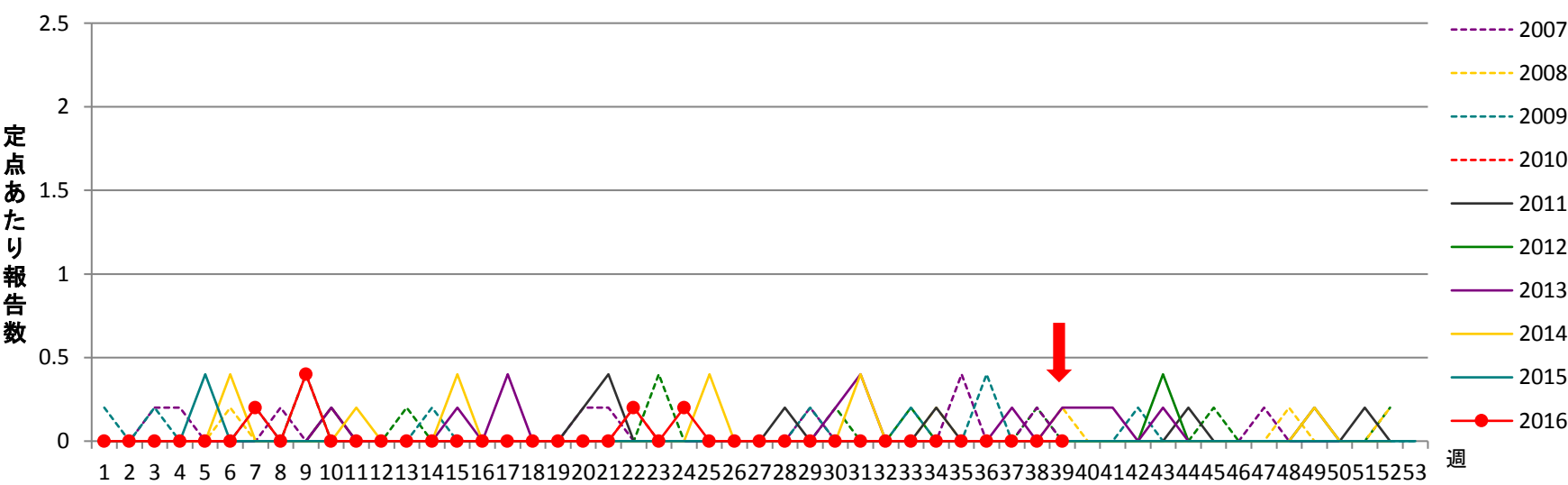
急性出血性結膜炎



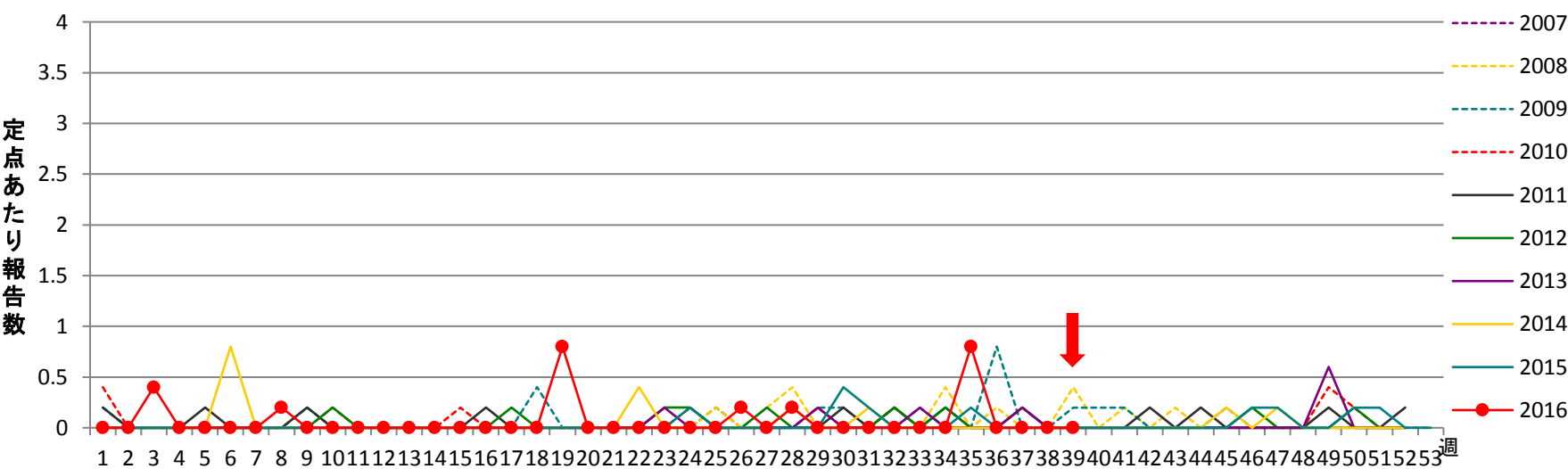
流行性角結膜炎



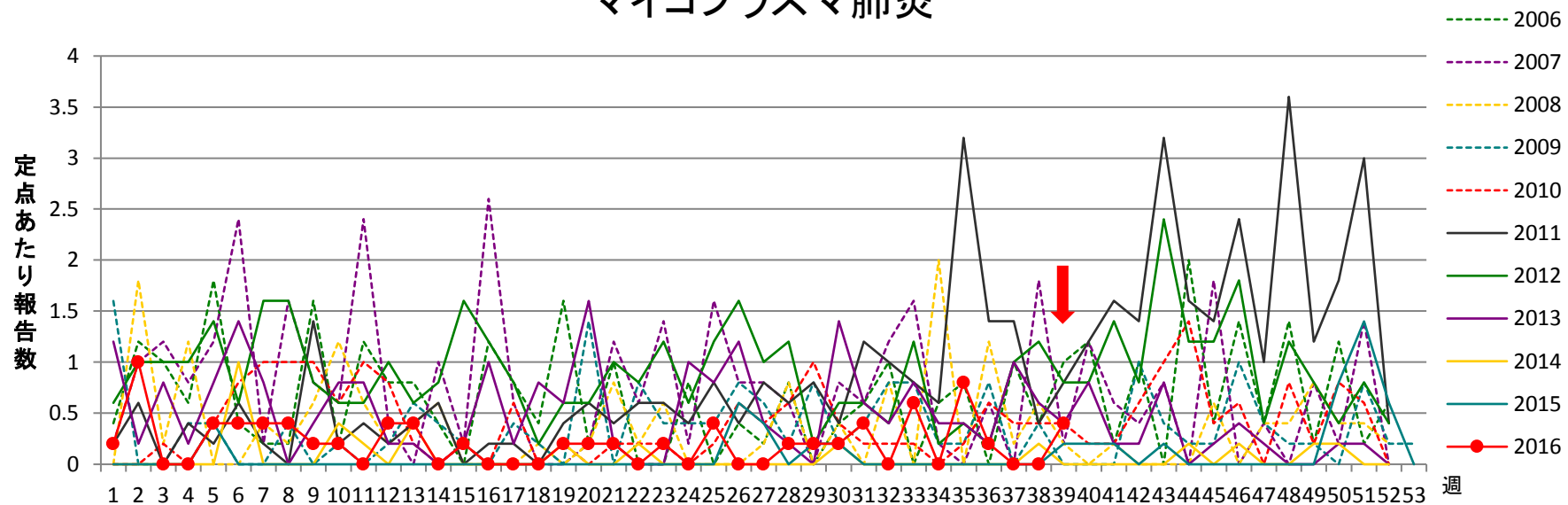
細菌性髄膜炎



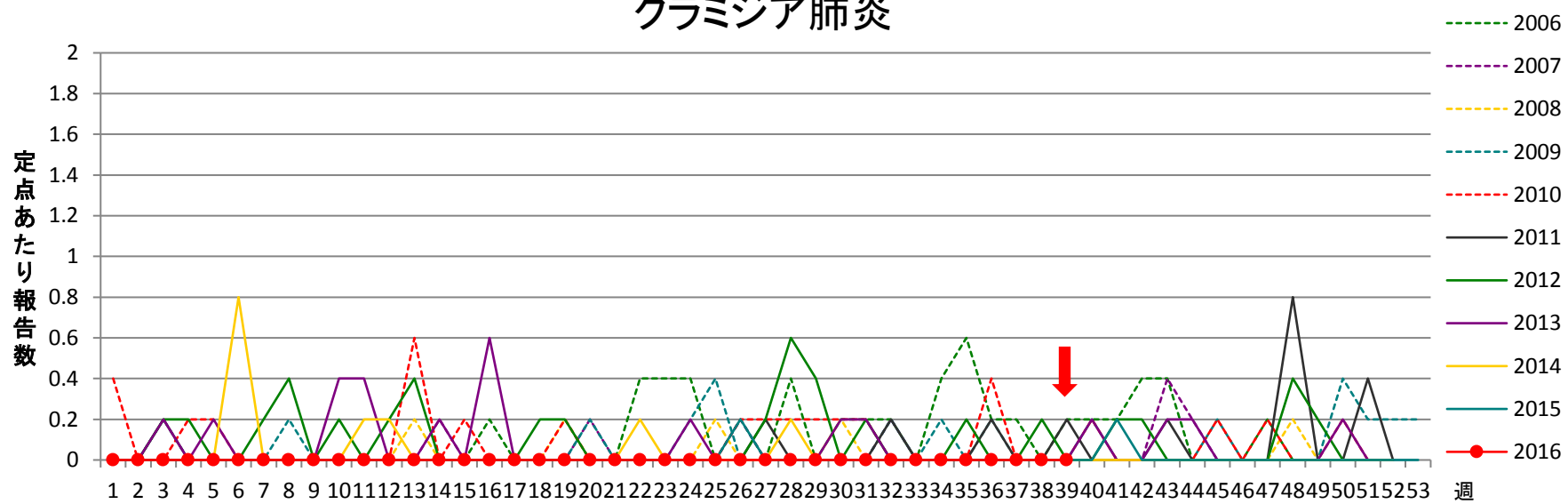
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

